

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）10:00~12:00

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 1 1

おはようございます。お手元にお配りしてはいますが、これから述べる私、●●の発表内容につきましては、2 年前に NPO 法人東京湾と荒川、利根川、多摩川を結ぶ水フォーラムの●●としての見解を既に 2 年前に発表しておりますので、これから述べる内容については、私個人というよりは、NPO 法人としての骨子であることもご了承頂きたいと思っております。座ってよろしいですか。

治水に関することですが、ゆめゆめお願いしたいのは、ダムを造れば治水は完璧であるとか、もう大丈夫だというような風潮がありますが、これは決してそうではなくて、過去の例でもダムだけでは洪水は防げない、という歴史的な現実をしっかりと PR する必要があるだろうと思っております。したがって、ダムと併行してですね、その地域に見合った、例えば、堤防強化する、あるいは河床、流路変更を改修する、あるいは遊水地を造る、その土地にあった最も有効な手立てを講ずることが基本でありますので、ダムで防げる部分というのは極めて少ない、あるいはダムで貯めている間に下流で洪水が起こるということはほとんどなくて、放流を開始してから洪水というのは甚大な被害を及ぼすわけですので、ダムだけでは決して洪水は防げないんだよ、ということをハッキリさせて欲しいと思っております。基本高水について、いろんな方から、どうも整備局は都合の良い高い数字ばかり並べている、ってような批判がありますが、私どもは歴史的にも最大の雨量を基礎とするというのは当たり前前で、あの山に降った最大の洪水がこちらの山にも来たらどうする、という考えるのは当たり前で、それを過大な数字だというふうに言って対策を小さくする、というのは断然間違っている、というふうに思います。いちいち数字を私は申し上げませんが、その意味で基本高水の、1947 年のあの雨の時に、比較的吾妻川が少なかったというその数字をもってするということは間違いだと思います。次に、水余り論について意見を申し上げますが、確かに都市用水、特に水道用水は減少傾向にありますけれども、これからの農業発展を、あるいは豊かな身の回りの河川を維持するためには、やっぱり水量が必要になってまいります。特に埼玉県の東部南部は、ほとんど農業用水であります。ここに集中的に人口が増えましたので、大変な河川汚濁がある。綾瀬川や中川が全国ワースト 1、一位、二位を占めているのはそういう結果であります。農業用水は、10 月 1 日から 3 月 31 日まで取水権を止めますので悲惨な状態があります。東京都が武蔵水路を造った時に隅田川で浄化用水として 43 トン、水を確保しましたが、その時に埼玉県は 1 トンも要求しなかった。ということに象徴されるように農業用水路の水量確保というのは、今や都市に住む私どもにとっては、喉から手が出るように欲しい水量であります。これが止められているわけでありまして。したがって、ダムを造るにしろ造らないにしろ、水利権の見直し転用・流用という弾力的な法改正は是非ともして欲しい、とまあそのように思うわけでありまして。是非、水量水源を確保してですね、冬期も必要な水量を流して欲しい、豊かな水辺を確保して欲しい。当然水辺を確保するということは洪水の時もその責任を負うわけでありまして、洪水の対策と併せてですね、水量の確保を求めるものであります。次に、緑のダムであります。私はこれは幻想だろうと思っております。例えば 10 ミリの雨が降ります。2 ミリくらいは葉っぱについて、それは蒸発してまいります。7 ミリ、8 ミリの雨は下に落ちますが、これは土壌の状況とかいろいろによって全く違いますので実験的な、あるいは測定を、測量したデータがいまだに無いんですね。したがって、地下水に行った水がですね、ど

のように消費されるか。かなりの部分は樹木の生育に必要であります。あるいは、地下水となって流れる。あるいは、その次の1時間の10ミリは、相当な量が表流水となって川に流れていきます。都市用水を考える場合は一時的に溜めおくということがどうしても必要となってくるわけでございます。ま、実験的にこれはデータが証明されておられません、私、二つの事例を申し上げます。

もう40年位も前ですが、雲取山というのがあります。2,200メートルの山です。ここに雲取小屋という小屋がありまして●●●●●というのが当主です。今は息子さんが変わっておりますが。私4月の末の頃行きましたら、小屋のそばにある水場がカラカラに一滴も無いんですね。「おやじさん、どうしたんだ？」と聞きましたら、「ばかいえ。」と。「4月、芽吹きの際に一番樹木は水を欲しがります。この時くらい人間様は我慢しろ。」雪はまだあるんですよ。そこに一滴も水場がない。すべからず樹木が吸い上げる。この豊かな緑を確保しているのは、その地下水だと。したがって、地下水のうちどれくらい浸みて伏流水や川に来るのかっていうのは正確に分かりませんが、事例として確認している。今ひとつは、1947年、小河内ダムを東京都が事業を開始しますが、この前後、戦中戦後、ほとんどのところ、ハゲ山は、樹木を伐採してタキギ、マキにしました。ダムは工事が進むに連れて、東京都はあの周辺の人たちがものすごい勢いで杉の木、いわゆるクロ木というのを植えます。数千万本といわれております。5年、10年とすわっていきます。全山が緑に覆われます。しかし水量は減っていくという、これは東大の農学部がデータを出しています。確かにものすごい勢いで生育のために吸っていきます。川に来る水が減っていくという、緑は増えても減っていくという。これは樹木の生育のために我々がそれを認めきやいけないという一例でございます。したがって、私は緑のダムに期待をするということは自由ですけども、数量としてはさほど、さほどということでは正確な数字は出せないということではありますが、さほど、過度な期待はしない、ということをおもっているところでもあります。豊かな水辺を守るために、そのような現象があるということを確認して頂きたいと思っております。

その次に、今度の方針にはありませんが、水質の問題です。強酸性雨の対策であります。品木ダムで石灰で中和の方式をずっと取っておりますが、このやり方が50年、100年続くということはどう見ても、おもしろくない。何か今の科学の力で対策があるはずだし、品木ダムが出来た前も我々はその水をずっと飲んできたわけですから、何か別の対策案があるはずですので、これについては今回の検証、問題提起ではありませんが、私どもは、これからの研究課題としていつまでも品木ダムに頼るってことをしないで、別の方式を研究したい、ということをおもっていると思っております。次に、水源をダムに頼らない、水源の問題であります。今回、富士川から引くという問題を聞いて、私これを初めて聞いてビックリしたんですね。現実的というか、まあ、とりあえず一つ事例を言ったのかどうか分かりませんが。私はこの点で巨大なダムを山奥に造るというやり方はですね、必要な場合があります。まだ地方には必要な場合もあるし、それによって高度成長を支えてきたという現実もありますので、否定をするものではありませんが、そろそろ関東においては卒業してもよろしんじゃないかと。八斗島の水位計のところでは年間46日くらい、43日だったかな、水位を3割下回るというのが統計上あるそうですが、幸い断水には至っておりませんが、これらを保障していくということは、どうしても考えなくてはならない。そこで私は前から提案しておるのですが、私が住んでいる戸田市に荒川調整池、第一調整池彩湖というところで970万トンの貯水量です。調整池は第五まで造る計画となっておりますので、最終的には鴻巣と吉川町ですか、2537メートルの川幅のところは第五となっております。五まで全部造りあげますと、約1億トンに達する水量を超えます。八ッ場ダムに匹敵するわけでありまして。必要な水を山奥に溜めるといったやり方も今までは必要だったけれども、これからは身近なところで溜めよう、と。幸い、斎藤祐美という人物が、明治政府に幅2000間の川を造るということをおもっていることを内務省に提案したことが、今2,537

メートルという川を有したわけですから、ここに必要な水を溜める、ということを新しい水源の考え方として提案をするところであります。

最終的に私どもの骨子、私個人としても八ッ場ダムをこの時点で中止することは絶対にいかん。これは完成させた後、キチツとした地域振興なり、環境保全をするべきだ、と思います。今ひとつ提案を致します。吾妻の岩盤の景観は実にすばらしいのでありますが、ダムを造れば上下の分断は100パーセントさせてしまいます。どう考えても、この環境破壊は補うことは出来ないんですね。それは都市の生活を豊かにするために犠牲になるわけでありますが、あそこの岩盤を守るひとつの手立てとして、みなさんは黒四ダムに行ったことはございますか。ダムサイトから2本の放流水が出ていて虹が立ちます。毎秒10トンの水を放流している。私は山が好きなので、あの下に入ります。下廊下と言って宇奈月までアルピニストにとっては、最も魅力的なコースであります。私は3回あの下に降りました。しかし、恐ろしいということはありません。下久保ダムなんか地獄の3丁目という感じがしますけれども。黒四ダムは何故かという、あの水滴が岩盤をずっと3キロ5キロ湿らかしている。今度の八ッ場ダムは1キロ下にダムを造りますから、この1キロ間は完全に乾燥したひどい状態になりますので、私は100リッターで結構です。放流して下さい。これで、他の自然の岩盤の植物は守れるはずですよ。そんなことも考えながらこの1キロ、ダムサイトの下の発電所までの1キロの保全はですね、特別な配慮をして欲しい、というふうに提案をします。以上、私の結果であります、八ッ場ダムはこの時点で中止することなく完成させるべきであろうと、お願いして私の意見とさせていただきます。

以 上